

2021年度「先進的取り組み」報告会

合同ハイブリッド研究会と Event-In上でのハッカソンの試験開催

2022年3月14日

サービスコンピューティング研究会、知能ソフトウェア工学研究会

目次

- ✓ 企画趣旨と開催概要
- ✓ 「連邦型研究会」像の具体化
- ✓ ハイブリッド環境でのアイデアソン・ハッカソン
- ✓ アイデアソン・ハッカソンを中心としたまとめ

企画趣旨と開催概要

- ✓ 昨年度に引き続き、ハイブリッド合同研究会のプラクティスを積み、実証評価の上、経験・知見を蓄積 → 学会・ソサエティに還元
 - プラクティスを通して「連邦型研究会」像の具体化
 - 取り組みタイプCとして実施：①ポスタセッション・懇親会実施、②Event-Inで実証・評価
- ✓ ハイブリッド環境でのアイデアソン・ハッカソンの実証実施
 - Event-In上で、如何に実現出来るかを実証評価
 - 取り組みタイプCとして実施
- ✓ 招待講演とそのアーカイブ化については今回は実施していない。
- ✓ 開催概要は以下の通り

日付	Event-In参加 日次のべ実績	オンサイト会場 参加者	特記事項
2021/11/5(金)	18アカウント	12名	オンサイト会場参加者でもEvent-In参加をしている、一時的参加者もいるため実効参加者数は厳密には判らない。両日参加は11名
2021/11/6(土)	28アカウント	7名	

(※1) 開催場所：オンサイト会場(KBSE研究会で設置)：盛岡マリオス181会議室(11/5), Aiina研修室817(11/6), Event-In(一般セッション/ポスタセッション/ハッカソン)

(※2) 開催プログラム：通常発表が5件、ポスタセッションで5件、ハッカソンの一環としてチュートリアル講演が1件

「連邦型研究会」像の具体化

✓「連邦型研究会」と言う概念

- 構成組織体がそれぞれ独自の開催意図を持ち、各々が主管サイトを立て、各研究会の主要イベントを開催実施の上で、緩やかに方向性を共有・一体化を目指すもの。会議それ自体がハイブリッド化・疎結合性が高まる中、主催主体についてもより緩やかな連携を目指し、研究会への多くの参加を促す。

✓緩やかな連携のもとで実証した結果、得られた知見は以下になる

- **概ね、イベントとしては成功**
- **長所**：各研究会の独自色を残して個々企画を実施。研究会間の事前調整は大幅に緩和、スタッフとしては労力削減にが可能。参加者が知る事項・知識に劣化がある訳ではなく、新たな運用スタイルになる。
- **短所**：主催側にプロデューサ的視点醸成の機会が減じ、魅力ある研究会を維持することに淡泊になりがち傾向に対して、大きな効果は無さそう。

✓ 実証実施の狙い

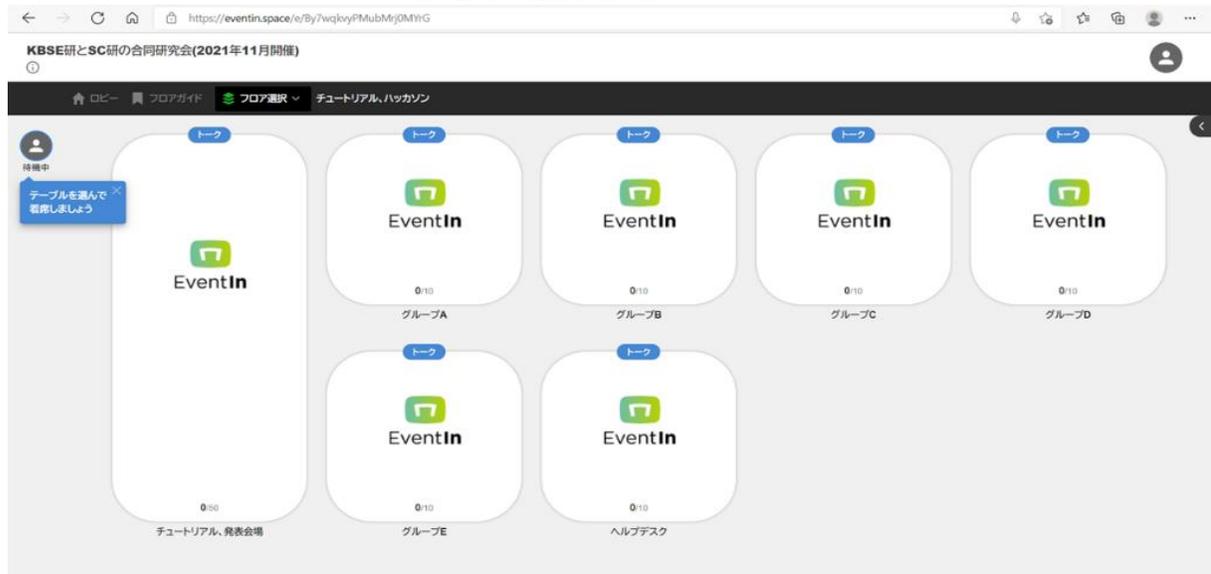
- 定型的で保守的なプログラム構成になり勝ちである状況に新風を吹き込み、学生を中心とした若い世代の参加者を引き付ける様にする。
- 昨年度に紹介を受けた分散オブジェクトを応用したmadoriコラボレーションライブラリの適用可能性を探る。（※興味・関心を示す参加者は多い。）
- 新たに採用するEvent-Inにおける利用可能性を探る。

✓ 概要

- **テーマ：ウィズコロナ時代にあるべき新しいコラボレーションツール提案、プロトタイプ作成**
- **要件定義に向けてのアイデアモチーフ**
 1. 完全リモート/ハイブリッド
 2. 対面(現実感, 没入感)重視/オンラインツールをより便利に
 3. パソコン単体/多様なデバイス
 4. 差異を無くす/多様性を受け入れる
- **タイムスケジュール**
 1. アイスブレイク・アイデア出し・方針決定 (60分) : ここまでは「アイデアソン」に相当
 - A) 自己紹介(名前, 所属, アイスブレイクの話等)
 - B) ブレインストーミング(チーム毎に用意しているGoogle Jamboardを利用)
 - C) グループING/取捨選択
 - D) 方向性, 実装する機能の(仮)決定
 2. プロトタイプING・発表資料作成(120~150分)
 - A) 開発, 起動修正, 開発
 - B) アイデア, 利点, 実現したことのまとめ
 - C) デモ方法決定
 3. 発表 (45分)
 4. 評価は全員による投票、表彰は懇親会で発表

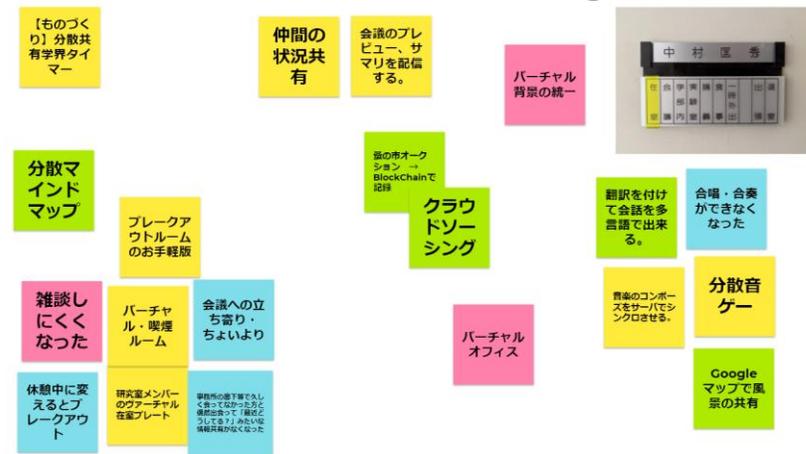
ハイブリッド環境でのアイデアソン・ハッカソン

✓ Event-In上の会場設定

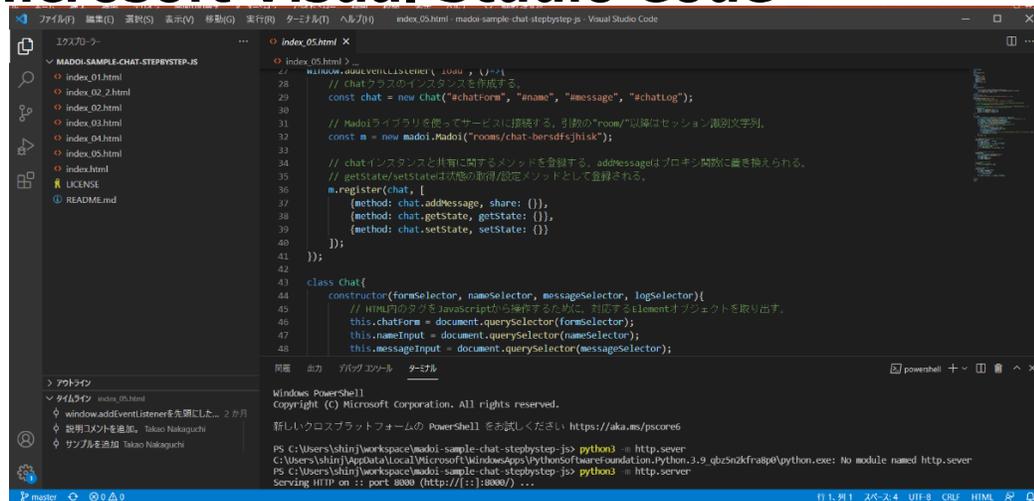


- ✓ 議論はEvent-In上で安定して可能
- ✓ 概念シェアについては補助ツール群で共有

✓ アイデアソンの支援ツール：Google Jamboard



✓ GitHubでのシェア、スクラムツールとしてのMicrosoft Visual Studio Code



アイデアソン・ハッカソンを中心としたまとめ

- ✓ **学会標準ツールEvent-Inでのオンラインハッカソンを実証して見て得た知見**
 - Event-Inの安定性はハッカソン運営に十二分に寄与することは確認。
 - Event-Inだけではスムーズなハッカソン運営は困難 → Google Jamboard等の複合環境要。チャンネル設計等の知見は蓄積した。
 - ハッカソンそれ自身は、若い世代の技術者の参加と維持には有効。どの様に先進的ツールを前提とした研究会を構築していくかについては、今後とも議論を要する。
- ✓ **プラクティスを通じたハイブリッド研究会の運用上の課題 (KBSE側で検証)**
 - ハイブリッド開催故にオンサイト会場における音響調整の難しさ
 1. オンサイト会場からの他研究会へのオンライン参加に関しても、NW環境や運用形態を事前に検討要。
例) オンサイト会場からオンライン環境へ接続する際にも、Zoom、Event-Inなどを通じた発表形式のセッションを聴講する場合であれば、代表する1クライアントをネットワークに接続すればよいが、ポスタセッション等の個別のディスカッションが求められるセッションに参加する場合には、複数アカウントのネットワーク接続が必要。
 2. オンサイト会場から、ポスタセッション等の個別のディスカッションが求められるセッションに参加する場合、ネットワーク環境だけでなく個室やヘッドセットを利用する等のハード面での準備の検討要。
 3. ハイブリッド開催の場合、オンラインでの発表スライドの視認性が、オンサイトでの視認性（前部設置のスクリーンによる視認）より、かなり高くなると感じた。
 4. ハイブリッド開催の場合、オンライン発表に耐えられるオンサイトでの視認性の改善やオンライン発表者への意識付け等の対策が課題。
- ✓ **アンケート等による定量評価は、今回は実施していない。**